

病児・病後児保育の実施に向けた取り組みは

実施に向けて医療機関の関係者などと協議を行っている



辻 史子
公明党田原市議団

病児・病後児保育の実施に向けて

- 問** これまでの取り組みは。
- 答** 必要性が高いという認識のもと、実施に向けて医療機関の関係者などと協議を行っている。
- 問** 実現に対する市の考えは。
- 答** 田原市子ども・子育て支援事業計画に事業の実施実現を掲げており、引き続き関係者との協議や検討を行う。



高齢者の搜索模擬訓練（童浦校区）

認知症高齢者やその家族を支える施策について

- 問** 田原市でも「認知症初期集中支援チーム」を早急に設置すべきでは。
- 答** 医師や看護師、保健師などがチームを組み、認知症の初期段階で家庭訪問し、医療機関への受診や介護サービスの支援につなげていくもので、今年度中の設置を検討している。
- 問** 身近な地域で、認知症の人やその家族、地域、医療・介護の専門職が集い相談や交流を楽しむ「認知症カフェ」を増やすべきでは。
- 答** 取り組んでいるシルバーサロンや、認知症カフェのような集いの場が身近に数多くできるのが理想。住民の皆さんと協力して進めたい。

赤羽根地域のまちづくりについて

- 問** 基金の取り崩し、地方債の借り入れをすることで財政の健全性が損なわれないか。
- 答** 地方債残高は、232億円（平成26年度）あるが、合併後の建設事業の償還が終了し、平成33年度には130億円となる。基金残高を引いた債務超過額は30億円未満となり、財政健全化は十分維持される。
- ※**表記金額は億円未満切り捨てしています。
- 問** 活性化のため、弥八島周辺の暫定利用の検討と整備計画の進捗状況は。
- 答** 昨年度、地区まちづくり推進委員会等と検討を行った。津波避難路兼散策路やキャンプ場等の意見があり、それらを踏まえて暫定利用計画を作成中。
- 問** オリピック誘致と併せた地域整備計画と今後は。
- 答** サーフインを最大限に活用したまちづくりとして、既存計画と整合を図りながら、赤羽根市街地及びその周辺で一体的なまちづくりを進める。